生涯学習情報誌

7 + 1 7

第 44 号 2009年 2 月10日

発 行

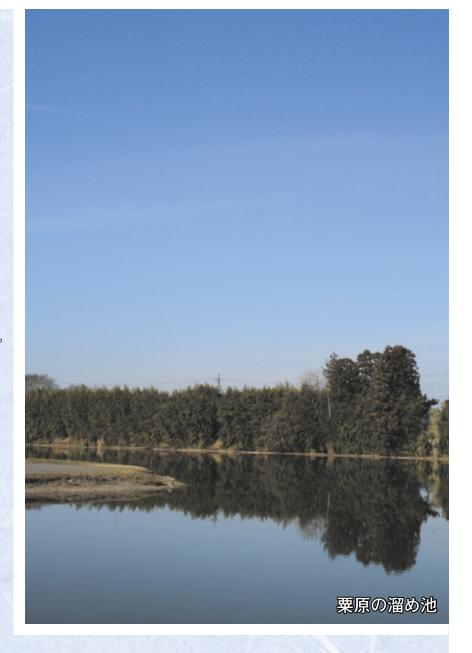
常陸太田市フォンズ・ネットワーク 事務局 常陸太田市生涯学習センター内 〒313-0061 茨城県常陸太田市中城町3280番地 TEL 0294(72)8888 FAX 0294(72)8880

水の想い出43

出発(たびだち)

私の家族は、昭和43年の1月に栃木県の小さな町から、父の転勤に伴って常陸太田に引っをしてきた。当時小学校の転校を、当時小学校の転校を、当時小学校の転校を、「大都にもあっさりとそれをが、受けていた。仲良しのたくさんのりなしかった。から、新しい街・新しい学校・新しい大き・・・・まだ見ぬ未知の土地への希望と期待がそれを上回っなんだもの!私は勝手に、にぎやかなたもの!私は勝手に、にぎやかな大都市を想像してワクワクした。

引越しの朝、町の人達の盛大な見送りを受け、意気揚々と私たちは出発した。町をはずれるとすぐに県境を越える。下館から一路50号を東へひた走り、岩瀬・稲田・笠間へ。そのころの道路は今とは比べようもないほど悪く、50号はほとんど狭い旧道だし、当時難所といわれた中山峠に至っては舗装さえされていなかった。ここまでも長い長い道のりだったのである。ところが石塚の町までや



っと降りてきた車の列は、運送会社の大型トラックを先頭に、なんとここから迷走を始めたのだ。なぜか 123号をたどって水戸へ、水戸から6国経由で勝田へ、勝田から日立方面を目指し途中の横堀街道を北上。土地勘のない私たちは、恐ろしく遠回りしていることさえ気づかず、ひたすら新天地をめざしてトラックの後を追った。最後の街を通り抜け、額田の坂を下る瞬間、運転していた叔父が叫んだ。「常陸太田だ!」 私の目の前に突然信じられない程美しい景色が270度のパノラマで広がっていた。雄大な阿武隈山系の山並み、手前に果てしなく続く田園地帯とその先の丘の上の街並み。悠然と流れる久慈川の川面が、私たちを歓迎するかのように冬晴れの光にキラキラと輝いていた。 (菊池 幾子)



一番。水型老歩《

~粟原・梵天山エコミュージアムモデルコース パン

寒い中でも木々は春の準備に怠りなく、遠山の景色がほんのりと赤みを帯びてきました。 きっと芽も膨らんできているに違いありません。早春の一日、水辺をゆったりと歩いてみ てはいかがでしょう。今回ご紹介するエコミュージアムマップは粟原・梵天山コースです。





①梵天山古墳群と宝金剛院

前方後円墳2基他多くの古墳が点在 しています。(マムシ注意)



⑥梵天山古墳群(島の百穴)

宝金剛院の西側斜面には横穴墓群があり、通称「島の百穴」と呼ばれ、昭和の調査では66基が確認されています。



「かわい」(地図★)

水郡線の電車で太田へ帰る時、久慈川の堤防にかわいという文字が見える季節があります。 地域の方たちが彼岸花を植えてあるのだそうです。

③粟原池とカワセミ

中国の庭園のような趣の粟原池は、釣り人たちでにぎわいます。柳や桜に囲まれ、またカワセミをよく見かけることができます。



昭和40年代ころにはこの 張り市内中学校の宿泊遠足 ったそうです。現在は藪が 川沿いの堤防から合流地点

《主なサテライト》

■自然·環境分野

①イチョウ(宝金剛院)

- ②ケヤキ(鹿島日吉神社)
- ③ 粟原池の魚類・昆虫類

ヘラブナ・ジャコウアゲ

ショウジョウトンボ等

④野鳥(オオヨシキリ・サギ等)

■■歴史·民俗分野

⑤梵天山古墳群 ⑥島横穴群(島の百穴) ⑦鹿島日吉神社 ⑧久慈川改修記念碑 ⑨鹿島神社 ⑩枕石寺 ⑪河合神社

⑩河合城跡 ⑬防人の歌碑



訪れた時に詠んだ 詩が碑に刻まれて います。◀

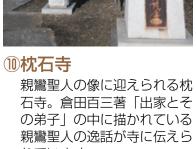
恨むらくは帰れてからまり供なにからまな麻を帯びて養蜜たる藤花明を帯びて いらまり縷絡といれる藤花眼を刺しいる藤花眼を刺し たをみ ι







れています。





8久慈川改修記念碑 (岸信介碑文)



③防人の歌碑

(手前·山田川/奥·久慈川)

合流地点付近にテントを が行われていたこともあ 生い茂っていますが山田 を望むことができます。

「久慈川は幸くあり待て潮船に、

真楫繁貫き吾は帰り来む」

防人として遠く筑紫へ派遣された当時の人々にとって九 州は地の果てのように感じられたことでしょう。ふるさ とに必ず帰ってくるとの想いが強く感じられる歌です。



太田の水~湧き水ものがたり・井戸めぐり~

自然の恵み・水は生活に欠かせないものとして、大切に守られてきました。 市内の「湧き水·井戸」をご紹介します。 (石川 誠・塩原 慶子)

太田七井

一面に広がる水田にぽっかりと浮き出た台地の形が、海面に浮かぶ鯨の背のようだといわれた鯨ヶ丘。地

1.2/2/2/2/2/2/2/2/2/2/2/

形的に、台地の周縁には多くの湧き水や井戸があり、その水は人々の暮らしと町の発展・形成になくてはならないものだったことでしょう。

①金が井(金井町)

太 ②下 井(木崎一町)

田 ③観蔵井(栄町)

4十王井(寿町)

(5滝の井(木崎二町)

6紫岸井(栄町)

7猿の井(内堀町)



1)金が井



②下井 旧太田町内でもっともきれいに整備されている下井、現在もたっぷりと水をたたえています。



⑤滝の井 この付近にあったらしい。名前の由来は斜面から滝のように豊富に水が湧き出ていたからだそうです。地域の方が立てた看板が残されています。



⑥紫岸井があったといわれている帰願 寺(左)と④十王井があったといわれて いる十王坂(右)。このほかに猿の井を 加えて「太田七井」と呼ばれています。



お殿様御用達の井戸



③観蔵井 お茶の水とも呼ばれ、徳川歴代藩主が 訪れた際にこの水でお茶を点てたといわれています。



殿井戸(金砂郷・蜂巣地区) 元禄3年、光圀公が金砂山参拝の折、水を求めそのおいしさをたたえたと伝えられています。昨年「わがまち地元学事業」において地域資源として再発見され、「なんとか元に戻したい」と参加者の一人、会沢洋之さんはおっしゃっていました。

小野の七葉





瑞竜地区にも多くの井戸があります。地元では「小野の七井」として紹介されており、また瑞竜小学校に掲示してある史跡案内図(地区老人会作成)にその位置が示してあります。





井坂 弘さん

瑞竜小学校では総合的な学習の時間の中で3人のみなさんが「小野の七井」を調べました。「井坂さんに教えていただきながら7つある井戸を調べました」。「この地区は井戸が多く、七井以外にも名前がわかっている井戸の看板を立ててあります」と井坂さん。その看板のひとつが子供たちの目にとまって小野の七井を調べることになったのだそうです。

なつかしの井戸

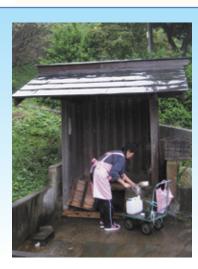


カメラでつづった半世紀 関右馬状允アルバムから (財)日立市事業団発行

内堀町の古刀比羅神社の前のアスファルト面、何度舗装しても沈んでしまうそうで、ここは昔井戸があったところ。とても深い井戸



だったそうです。 それが⑦猿の井といわれています。 左側の古い写真は 昭和13年頃の猿 の井が写されてい る写真です。



道城井戸

(水府・天下 野地区) フォンズ32 号でもご紹介 した道城井戸 も光圀公のお 茶の水として 使われたとい われています。



下井を撮影しようとしていた時、昔懐かしい「ガッチャン」ポンプの井戸を見つけました。下井のすぐ下にお住まいの小沢さん宅の井戸です。「埋めてしまおうと思ったこともありますが、万が一の時には大事な水と思って」と今でも汲めるように手入れを欠かさないとのことです。

あるまう

平成20年度・生涯学習フェスティバル



日 時:平成21年**2月21**日(土)、**22**日(日)

9:00~16:00

場所:常陸太田市生涯学習センター

常陸太田市市民交流センター

昨日できなかったことが今日はできるようになる。一人では味気ないけど、仲間と一緒なら楽しくできる。生涯学習には、数えられないほどの魅力がいっぱいあります。そんな魅力に魅せられた皆さんの発表の場が「生涯学習フェスティバル」です。常陸太田市の生活文化のお祭りの中から、皆さんの発表風景と展示している作品の一部を紹介いたします。

ステキな衣装を身にまとい、日頃の練習 の成果を発表します。





展示発表 🗎

作者の様々な想いがこめられた力作です。 ぜひ足を運び、ご覧になって下さい。





子どもの体験コーナー

生涯学習フェスティバルでは「子どもの体験コーナー」を開設しています。

茨城工業高等専門学校の先生にオリジナルストラップづくりとロボット操縦について教えてもらい、楽しく学べます。(21日(土)のみ)







『面白おかしいこんにゃく作りの冬』

ごつごつした丸い岩からニョキッと突き出た赤い角。こんにゃくを作る蒟蒻芋はまるで子鬼の頭のような形をしている。

掘り上げた芋を洗いながらたわしでこすると、きれいに 皮がむけてピカピカの白い肌がお目見えする。突き出た 角の部分は頂芽で、エグミがあるので丁寧にくり抜く。そう してきれいになった蒟蒻芋を水の中にすりおろしてゆく。 すりおろした蒟蒻芋は最初薄ピンク色で、火にかけてゆく とだんだんどろっとして白色から透明色に変わってゆく。 鍋の底からはがれるくらいにもったりとしてきたら、火を止 める。あとは炭酸ソーダを入れて混ぜ固まるのを待ち、形 を整え、最後に湯の中で煮る。煮ることで固まると同時に 炭酸ソーダのアルカリ成分が抜け、あのプリップリのこん にゃくができ上がる。

あのごつごつした芋からつるっと玉のようなこんにゃくができる。その変化の過程がおもしろく、こんにゃく作りは

毎冬の楽しみな仕事。

栽培するのも面白い。赤子の頭くらいのこんにゃく芋を掘り上げると必ずどこかに小さな丸い芋が一緒にころがり出てくる。これがこんにゃくの種芋。このピンポン玉くらいの種を翌春植えて、すると秋にはげんこつ玉くらいになり、それをまた翌春植えて、やっと赤子の頭ほどになる。1キロ位の大玉にするにはもう1年植え替える。小さな種から大体3年かかってようやく蒟蒻芋として使えるのだから、これぞスローフード。又、畑に突き出るように芽を出し、奇妙な斑点を持った茎を伸ばして八つ手のような葉を広げる夏場の姿は、どの作物よりも奇妙でおかしい。

食べ物作りの名人とでも言うか「あの人の○○は旨い!!」 という話をよく耳にする。こんにゃくもしかりだ。私の今の 願いはそんな○○名人さんのお宅に直接伺って、作り方 を教わりながら、ついでにその人の生き方・暮らしにもふ

れてみたいというもの。その食べ物ができ上がるには背景も大切な素材の1つ。生き方と食の伝承を組み合わせたような気兼ねない料理教室をやってみたいなあと思うこのごろ。

(木の里農園 布施 美木)





子育て 奮闘記

踊るママハラダイス 43

高校1年のスミレは、大変熱心に活動する部に所属しています。

活動も熱心だけあって、県内でも優秀な成績を収めている部です。部員数も多く、休みもほとんどなく、休日は朝から夕方まで生徒だちは一生懸命練習に励んでいます。

そんな部だからこそでしょうが、上下関係に厳しく、先生・先輩を立てるのは 当たり前、ぬるい職場環境よりずっとしっかりした社会ができ上がっています。 中学校の部活動より厳しい世界に、当のスミレは学ぶことも多いでしょう。実際、社会人になる一歩手前のスミレにとって、人との関わりの難しさを感じることは、いいレッスンだと思うのです。

しかし、そこはやはり、わがままも言いたい、お遊びもしたい16歳の普通の 娘なので、部活動での不平・不満をよく打ち明けます。親に言ってくれるので私 も把握しやすいのですが、うんうんと聞いて「そうだね、大変だね。」と慰めるだ けでは親としてどうか?そこで、社会に出れば、色んな人と関わり、上手に対処 しなくてはならないこと、我慢することが多いこと等、したり顔で語るわけです。 本当のことですから。

「お母さんだって、嫌なことがあるけど・・」

と更に付け加えたとき、よりによって上司の顔を思い出し、思わず「ちっ。」と舌打ち。すかさずスミレに「ちっ?…って何?」危ない、危ない…と言葉を飲み込んでにっこり笑ってみました。 —— わいわいネット 織田 裕子 ——

見ればわかるってことですか…ふふっ





エッセイ 「思い出の絵本」『ふたりはともだち』 ~43~ (久米町 島根 由美子)

皆さん、カエルって好きですか?子供の頃から田舎に住んでいる私の周りには当たり前のようにその辺にたくさんいて、たまに道路でペしゃんこになってたりすると、幼い時の私は舌を出してそこを避けて通ったものです。

しかし、小学校三年生の国語の教科書に、この本のお手紙という話を読んでからは、カエル に出逢って戸惑いながらも「おっカエル君」と挨拶できるくらいになりました。

この本の「ふたりはともだち」の二人とはがまくんとかえるくんの事です。二人はお互いの家に気軽に行き来する程仲良しで、このお手紙という話もいつものようにがまくんの家にかえるくんが遊びに行く事から始まります。ところががまくんは、「今日も誰からも手紙が来ない」と悲しんでいます。かえるくんもその悲しみにしばらくつき合っているのですが、自分が手紙を出してあげればいいのだ!と気づいて家に戻り、がまくんに手紙を書いて出すのです。あとは一緒に手紙が来るのを待つだけです。ところががまくんは「もう来やしないよ」と投げやりです。そこ



でかえるくんは自分が手紙を出した事をうち明けます。がまくんは嬉しく思い、二人は寄り添って手紙が来るのを待つのでした。 がまくんはちょっぴりわがままだけど純粋でどこか人を惹きつける愛嬌があり、かえるくんはそんながまくんを受け入れる優しさにあ ふれています。手紙は歩みののろい友達によって配達されるので、のんびり屋の私が驚く程長い時間がかかって届きます。 私はこの穏やかな話を読む度に、心の時計がゆっくりと感じられ、春の日差しに包まれたような暖かい気持ちになります。

もうすぐ啓蟄、そろそろ彼らにまた逢うことになるでしょう。

(次回は 大里町 鈴木 りかさん)

常陸太田の今昔 No.1 菅谷不動尊入口周辺(上深荻町·大菅町)

昔は、砂利道だった棚倉街道を、 今快適に里美地区に向かう国道 349号線。里美地区へ入り、上深荻町の河原野集落に小菅町から移転 した上深荻駐在所がありますが、 そのすぐさき、河鹿沢にかかる境橋(写真)たもとから案内板により 右に折れると、菅谷不動の滝のと ころに大菅のお不動さまがまつられています。

むかし、信仰深いおばあさんが 病に難儀していました。ある時、そ の枕元にお不動様のお告げがあり、 お告げどおり、倒れていたお不動 さまを清めてお参りすると、病がたちまちに治ったといいます。そのことが人々に伝わり、それ以後、縁日の28日には目の病気にご利益があると、出店がでるほど大変



昭和10年頃(大菅町 大金博紀さん提供)

賑わったといいます。おばあさんの供えた手水鉢が今もあります。 『里美むかしむかし』より

石川 誠



現 在

常陸太田の地名話 ~1~ 猿ケ橋(さるがはし) 【中城町】

高速バスのり場の北側、最近整備し舗装工事をした 生涯学習センターの方へ通ずる道路を、市道猿ケ橋線 とも呼ばれていた。猿ヶ橋はこの辺の字名になっている。 佐竹時代「太田城より瀬谷山岨に至りて、長橋を架す、 之を猿ヵ橋と云う、其長さ四百余間ありきとぞ」(『太田 盛衰記』)とある。むかし、機初の幡山は瀬谷(世矢)の一 部であったから、今の新機初橋まで、舞鶴橋から四百余 間およそ720メートル余りの長橋が架かっていたことになる。この橋普請の夫役を課されたのは猿飼いの総領塩谷右近こと申(猿)太夫であったということ

からこの名が付いたという。(「新編常陸国誌」)(猿ケ橋の所在場所については、諸説あるのもおもしろい)

石川 誠

